



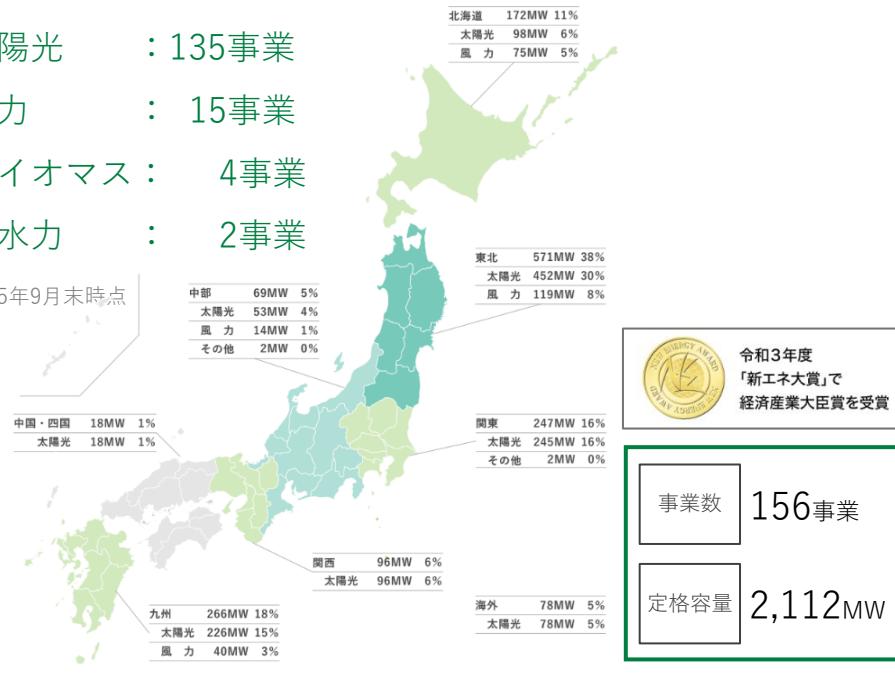
- 社名(商号) : 東急不動産株式会社
- 本社所在地 : 東京都渋谷区道玄坂1丁目21-1
- 事業エリア : 日本全国・海外
- 定格容量 : 2,112 MW (全国156事業)
- 公式HP : <https://www.tokyu-land.co.jp/>
<https://tokyu-reene.com/>

再生可能エネルギー事業のポートフォリオ

取組み概要

太陽光 : 135事業
 風力 : 15事業
 バイオマス : 4事業
 小水力 : 2事業

2025年9月末時点



対象エリア

全国

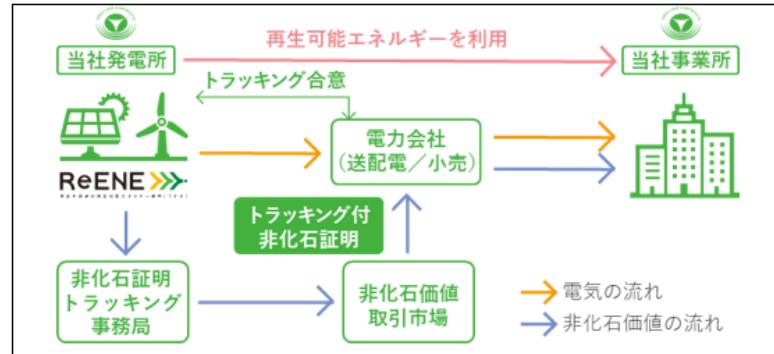
RE100の達成に向けた取り組み

取組み概要

不動産業で初のRE100加盟を宣言、
 事業活動で消費する電力を
 100%再エネへ切替え完了 (2022年)

- ・オフィスビル・商業施設・ホテル及びリゾート施設等、
 対象とする当社保有資産すべて (約244施設) を、
自社発電所由来の再生可能エネルギーへ切替完了
- ・切替後は年間約15.6万トン (一般家庭約8万世帯分) の
 電力使用量に相当するCO2削減の効果

【再生可能エネルギー切替導入スキーム】





取組み概要

- リエネ松前風力発電所は北海道電力の「風力発電設備の出力変動緩和対策に関する技術要件」を満たす風力発電所として、初めて運転を開始。
- 蓄電池システムを利用する事で、風による発電の出力変動を吸収し安定した電力供給が可能。
- 災害時に既存の送配電網を活用して風力発電所の電力を届ける「地域マイクログリッド」を2024年2月に運用開始。既存の送配電網を活用することで、役場や避難所などの災害時の重要拠点・地域防災施設のみならず、一部の一般家庭へも非常時の電力供給を可能とし、地域レジリエンス強化に貢献。

事業者	松前ウインドファーム合同会社(出資者：東急不動産)
協力者	松前町、北海道電力ネットワーク、千代田化工建設他
所在地	北海道松前郡松前町
発電容量	風車発電機：40.8MW(3,400kW×12基) 蓄電池：129.6MWh

風力発電事業を通じた地域共生の取組み

再エネ発電所と地域社会とのつながり

「地域活性化及び防災基盤の整備」に係る協定を松前町と締結(2019年)
「まちづくり計画策定に向けた連携」に係る協定を締結し、町の将来ビジョンを共同で作成(2022年)



再エネ発電所の運営を通じた地域活性化

ポータブル蓄電池を活用し、地元の青年部主催の夏祭りにリエネ松前風力発電所の再エネ電力を提供(2022年)
遊休地となっていた風力発電所の風車羽下の土地を活用し、地域に根ざした施設として「リエネウインドファーム松前」をオープン(2023年)
→風車見学会や町民向けイベントなどを実施。地元の子供たちがデザイン・制作をしたベンチや東屋を設置。



夏祭りの様子



リエネウインドファーム松前



地域新電力の設立

松前町と当社の共同出資により、地域新電力（松前再エネ電力株）を設立(2025年)
松前町内の再エネ電力を地域に供給する“地発地消”的実現に向けて、発電源の開発事業及び電力小売事業を推進



企業ロゴ



設立式典（左）、町民向けお披露目イベント



（中央、右）の様子



データセンターの
地方分散



カーボンニュートラル
の推進



再エネを活用した
デジタルインフラの整備



脱炭素先行地域として
ゼロカーボンシティへ



取組み概要

- ・2026年の開業を目指し、再エネ100%で運営するデータセンターの計画を推進中（受電容量：15MW）
- ・データセンターの地方分散、カーボンニュートラルの推進に寄与する事業として、国の補助金対象事業に採択。北海道および石狩市の指針に合致するプロジェクトとして、様々ななかたちでの地域社会への貢献を目指す。
- ・石狩市と「再エネ利用による持続可能なまちづくりに係る協定書」を締結（2024年）
 - 当社と石狩市は、データセンターを中心とした産業集積が加速化する石狩湾新港地域内の再エネ100%供給エリア（REゾーン）において、石狩市の脱炭素先行地域及びゼロカーボンシティの実現とまちづくりの継続発展に向けて協業する。

主なミッション

再生可能エネルギー100%で道内のSDGs・ESG・GXを推進

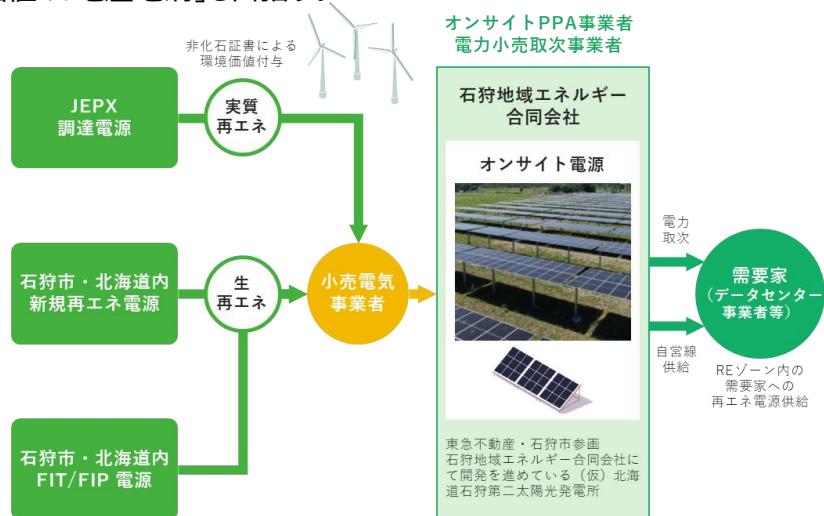
住民と企業に対する災害レジリエンスを備えた設備の提供

石狩市を中心とした地域人財の継続的な確保と育成

市全体のエコシステム創造に貢献

当社組成「石狩地域エネルギー合同会社」に 石狩市が参画

- ・石狩地域エネルギー合同会社は、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金活用型のオンサイトPPA事業を行っており、REゾーン内で4か所の太陽光発電所開発を推進中。石狩市の参画を契機とし、石狩地域エネルギー合同会社は地産地消電源を開発・保有する会社から、REゾーン内の脱炭素化を推進するための『エネルギー・プラットフォーム』の担い手となることを目指す。
- ・今後は、REゾーン内に集積する複数のデータセンターや商業施設など、幅広い電力需要家に対して取次スキームによる再エネ供給を推進するほか、FIT特定卸の活用やFIP転用を通じたPPA供給により、再エネ電力と環境価値の「地産地消」も目指す。



取組み事例: ReENE ÉCOLE (リエネ エコール)



環境教育プログラム ReENE ÉCOLE



当社の再エネ事業「ReENE（リエネ）」のブランド名と、フランス語で「学校・学び舎」を指す「ÉCOLE（エコール）」を組み合わせ、発電所のある地域をはじめとした全国の子どもたちに、再生可能エネルギーを中心とした環境問題について楽しみながら学んでいただくことを目的とした環境教育プログラムです。

事例① 全国の子どもたちをつないだ環境教育オンライン授業「ReENEサミット」

2024年12月に、懇親探究学舎とコラボレーションして環境教育オンライン授業「ReENEサミット」を開催し、全国の小学5・6年生186名に参加申し込みをいただきました。「脱炭素社会の実現に向けて私たちができること」をテーマとし、地球温暖化の現状について学び、自分たちの住むまちや地球の「いま」と「みらい」を子どもたちに考えてもらうことを目的とした授業を実施しました。

ReENE



授業の様子



イベント実施の様子

事例② 渋谷区代官山町の子どもたち向け環境教育イベント

2024年1月に、TENOHA代官山で再エネとサステナブルについて学ぶ環境教育イベントを実施しました。地元の小学生と周辺地域の子どもたち55名に参加いただき、発電所が身近に無い都心の子どもたちにも再エネについて理解を深めていただけるよう、再エネを体感できるワークショップやソーラーファームで収穫した野菜を使ったサステナブルランチを提供しました。



ワークショップの様子



サステナブルランチ

事例③ 小中学生向け環境教育授業

子どもたちが地球温暖化の現状を学び、脱炭素社会の実現を自分ごととして考えるきっかけをつくることを目的に、2023年度より環境教育授業を開催しています。2025年度は、東京都渋谷区、北海道松前町、茨城県行方市などで環境問題や再エネ等について学ぶ授業を実施しました。



授業の様子（渋谷区）



授業の様子（松前町）



授業の様子（行方市）



事例④ 全国の子どもたちに向けた絵本「たいようとかぜ みんなのちから」

2024年9月に、全国の子どもたちに環境学習のきっかけを提供したいという想いから、絵本「たいようとかぜ みんなのちから」を製作しました。絵本を通じて「地域資源を活かした再エネの取り組み」や「地域と発電所の共生」「クリーンエネルギーがつくる未来の在り方」を伝えています。



絵本「たいようとかぜ みんなのちから」



PDF ファイル



取組み事例: 地域資産を活用した地域共生(TENOHA)



地域共生活動の拠点 TENOHA

スペシャルサイト



当社は全国の事業地で、各地域の課題解決や活性化につなげていくことを目的とした地域共生活動を推進しており、その活動拠点・舞台となる施設として「TENOHA」を展開しています。TENOHA（テノハ）は、「手のひら」と「葉」を掛け合わせた造語です。施設を大きな木、新しいライフスタイルを沢山の葉として、つくりだす手と手が重なり合う葉のように広がり、新しい時代に向けて人やモノ・サービスが育っていく場所であることを表しています。地域の皆さんと手と手をつなぎ、沢山の葉を増やし、更に大きな木へと成長していく場を目指しています。

①TENOHA能代 (2023年4月開業)

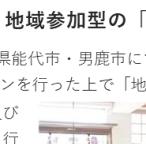


みんなのリビング（地域交流スペース）

②TENOHA男鹿 (2023年4月開業)



レンタルオフィス（産業支援スペース）



事例 秋田県能代市・男鹿市で、地域参加型の「みんなでつくるプロジェクト」を実施

2023年4月に、洋上風力の導入が進む秋田県能代市・男鹿市にて、「TENOHA能代」「TENOHA男鹿」をオープンしました。両施設は、既存施設のリノベーションを行った上で「地域交流スペース」や「産業支援スペース」を創出しています。また、秋田県内のパートナー企業及び地域の皆さんと共に、施設の企画・開発を行う「みんなでつくるプロジェクト」に取り組んでいます。地域の皆さんにワークショップやイベント等を通じた「施設づくり」に参加いただき、長く、愛着を持って利用してもらえる施設を目指しています。

【TENOHA能代 学園祭】
(2024年5月、来場者約1,500名)

【TENOHA男鹿 船川ナイトピクニック】
(2024年9月、来場者数約40名)



■ 松前町の地域活性化に向けた新しいまちづくり拠点「TENOHA松前」

2024年5月に、まちづくりの活動拠点となることを目指した地域共生型施設「TENOHA松前」をオープンしました。松前町での事業拡大に向けた当社事務所拡充に加え、地域課題解決・活性化に向けて、コワーキングスペースやイベントスペースの他、バス待合機能を備えたラウンジ等を設置しました。



オープン記念のセレモニーの様子



バス待合所・ラウンジ



コワーキングスペース
(学生ワークショップの様子)

③TENOHA松前 (2024年5月開業)



外観



屋外の電光路面標識

④TENOHA東松山 (2022年12月開業)



外観



カフェ兼コワーキングスペース

⑤TENOHA代官山 (2023年10月開業)



外観



外観*

*撮影: 山内紀